

資料の概要

この資料は、企業版ふるさと納税の寄附金を本市のどのような事業に充当するのかをお知らせする資料です。なお、事業費につきましてはいずれも令和5年度当初予算額になります。

①通詞島沖イルカ環境実態調査事業

事業費：18,117千円

【担当課/市民環境課】

【目的】古来から生息するイルカについて、生息数や漁業者との共存の歴史など、基礎的な情報を収集するとともに、データベース化を図り、環境保全に係る調査の検討及び教育・観光などに情報を活用する。

【効果】イルカに関する情報を蓄積・公開することで、観光促進、教育推進、海域の環境保全（ルールづくり）などにつなげる。

【事業内容】

(1) 実態調査、情報発信

- ・陸上調査（通年）…週3回、観測調査ポイントにてイルカの出現場所と時間、移動等を調査。
- ・船上調査（4～9月）…週1回、個体識別（背びれを撮影）調査、令和4年度は130頭を識別。
- ・事業者等聞き取り調査（通年）…イルカの出現場所・時間・数などの情報を毎日収集。
※当実態調査にて、潮汐や季節による群れの行動変化、遭遇率の研究を行う。
- ・情報発信（SNS、メディア露出、情報誌、イベント開催等）による事業の認知・拡大。
- ・天草エアライン機内誌に、「ここにいるから」を月1回寄稿。

(2) 大学との連携等

- ・帝京科学大学、長崎大学より当実態調査について専門的な助言・指導。

(3) 新たな学びのプログラム事業の構築

- ・天草市イルカセンターを拠点とした夏休みイルカプログラム…自由研究、調査体験を実施。
- ・教育プログラムの拡充…【市内】児童・生徒や企業（団体）への環境学習、
【市外】高校・大学・専門学校等への研修プログラム（研修生受入・共同調査等）。

(4) 専門家による“人とイルカとの共生へ向けた調査業務

- ・イルカを観光資源だけでなく、環境教育のシンボルとなるよう海のルール化、未来への継承、漁業者の生活を守る仕組みづくりを構築するため関係者から聞き取り調査を実施。



▲市外・高校生向けのSDGsプログラム



▲市内・学童クラブへ出張イルカ教室



▲親子で実態調査の体験

③水産資源回復・基盤整備事業

事業費：30,301千円

【担当課/水産振興課】

【目的】地先にあった藻場の再生・造成や資源管理を実施することで、本市水産資源の維持・回復を図るとともに、漁協と漁業者が連携して実施することで漁業従事者の意識啓発を図る。

【効果】藻場造成や沿岸海域での水産資源に対する産卵床設置などモニタリングを含め、漁協や漁業者と連携して実施することで、高い事業効果が得られている。水産資源の維持・回復、水産物の安定供給を図るため今後も継続して実施する必要がある。

【事業内容】

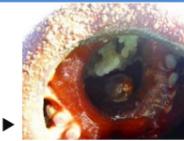
- ・令和4年度と同様に引き続き「資源回復活動」としてイカ・タコ産卵施設の設置や、藻場保全活動として有害生物の駆除に取り組む。

◆イカ・タコ産卵施設（資源回復活動）

施設名	実施内容	R1	R2	R3	R4
イカ産卵施設	実施地区	5地区 (8地先)	5地区 (8地先)	5地区 (8地先)	4地区 (7地先)
	設置個数	2,400基	2,400基	2,400基	1,960基
	うちモニタリング	170基	170基	170基	160基
	推定産卵数	47万粒	78万粒	67万粒	38万粒
タコ産卵施設	実施地区	7地区	7地区	7地区 (8地先)	7地区 (8地先)
	設置個数	11,093基	11,300基	11,300基	10,850基
	うちモニタリング	170基	170基	170基	160基
	推定産卵数	47万粒	78万粒	67万粒	38万粒



◀イカ産卵施設



▶タコ産卵施設

◆有害生物駆除活動（藻場保全活動）

ウミアザミ (二江地先)	年度	R1	R2	R3	R4
シート設置数(枚)		114	105	92	80

実施方法：10mX10mの遮光シートでウミアザミを覆うことで駆除

オニヒトデ (牛深地区)	年度	R1	R2	R3	R4
駆除作業人		14	14	12	12
駆除個数		25	25	42	31



▲社会教育としてアマモ場造成



▲ドローンによるアマモ場面積確認

②海岸漂着物地域対策推進事業

事業費：12,120千円

【担当課/市民環境課】

【目的】近年プラスチックをはじめとする海洋ごみによる海岸機能の低下や環境・景観の悪化、船舶航行の妨げなどが懸念されている。天草の良好な景観及び海洋環境保全のため、海岸漂着物等の処理や海洋プラスチックごみの発生抑制などに取り組む。

【効果】海岸漂着物の回収を漁協やボランティア団体と連携し、実施することで環境保全とボランティア意識を高めるとともに、回収した流木は、中間処理施設で破碎（チップ化）し、土壌改良材等への再資源化につながっている。

【事業内容】

漁業者による海岸漂着物の回収▶

(1) 漂着ごみ、漂流ごみの処理

- ・市民ボランティアや漁業者などにより回収された漂流・漂着ごみを処理。

(2) 発生抑制対策

- ・海洋プラスチックごみの多くは、主に陸上から流出したものが原因と言われていることから、レジ袋削減やポイ捨て防止の啓発など、海洋ごみ発生抑制に係る事業を関係者との連携、協力により取り組んでいる。
- ・ごみの正しい出し方や分別の啓発は、海洋ごみの発生抑制にもつながるため、令和5年度はごみ分別辞典を作成し、全戸配布を予定。



(単位：ト)

年度	流木	廃プラスチック類
R2	124.03	7.03
R3	77.04	6.34
R4	71.61	17.23

▲Youtube動画で発生抑制へ

令和2年	地元CATV放送局にプラスチックごみ発生抑制啓発番組の制作を依頼し、5カ月間放送	令和3年	プラスチックごみ削減の啓発リーフレットを制作し、市政だよりとともに全戸配布	令和4年	京都芸術大学、天草高校の協力でプラスチックごみ発生抑制動画3本を制作しYoutubeで配信
------	--	------	---------------------------------------	------	---

④資源管理推進事業

事業費：20,316千円

【担当課/水産振興課】

【目的】漁業者と連携して、種苗放流を実施することにより、水産資源の維持・拡大を図るとともに、資源保護に向けた漁業者の意識啓発を図る。

【効果】水産資源を維持・回復させるためには、種苗放流を継続する必要がある。さらに、生残率を高めるため、環境整備や適地放流等を漁業者と一体的に取り組んでいる。

【事業内容】

年度	R1	R2	R3	R4	R5
放流魚種	マダイ ヒラメ イサキ ガザミ カサゴ	マダイ ヒラメ イサキ ガザミ カサゴ	マダイ ヒラメ イサキ ガザミ カサゴ	マダイ ヒラメ イサキ ガザミ カサゴ	マダイ ヒラメ イサキ ガザミ カサゴ
放流尾数(千尾)	1,320	1,320	1,279	1,277	1,107
放流魚種	アカウニ アワビ タイワンガザミ クルマエビ ヒラメ	アカウニ アワビ クルマエビ ヒラメ	アカウニ アワビ クルマエビ ヒラメ	アカウニ アワビ クルマエビ ヒラメ	アカウニ アワビ クルマエビ ヒラメ
放流尾数(千尾)	936	666	785	554	745
放流魚種	トラフグ	トラフグ	トラフグ	トラフグ	トラフグ
放流尾数(千尾)	33	33	33	33	30
放流魚種	クルマエビ	クルマエビ	クルマエビ	クルマエビ	クルマエビ
放流尾数(千尾)	533	533	533	310	310

▼事前説明会を行い、小学生と一緒に放流事業を実施

